令和５年度

焼津高等学校

学校評価　自己評価

令和５年度　焼津高等学校　学校評価

自己評価表　学校経営

教育目標	ア　校訓「心は寛く　気は高く」の実践 イ　総合学科の特性を活かし、生徒一人ひとりに対するキャリア教育の充実
建学の精神	ア　明朗、優雅、しかも質素で、勤労と責任を重んずる徳を養う。 イ　苦難克服の意気と、心身鍛錬の習慣をつくる。 ウ　時代の進歩に相応し、自主的で有為な先駆者となる抱負をもたせる。 エ　生活を科学化する基礎的実力を養う。 オ　師弟同行、家庭的親和の下、個性の伸長と協力的精神の啓発につとめる。
育てたい生徒像	ア　他者の意見を傾聴して多様性を受入れ、自分の責任を自覚し、協働して社会に貢献しようとする生徒 イ　自分の成長のために進んで学び、自らの感情を律して心身を鍛え、主体的に思考し行動しようとする生徒 ウ　社会の変化に対応する柔軟性を持ち、主体的に課題を発見し、論理的に分析して、 計画的に処理・解決しようとする生徒 エ　働くことや学ぶことの意義、自分の立場や果たすべき役割を理解し、よりよく生きるための　様々な情報を適切に活用して個性を伸長しようとする生徒
具体的方策	ア　学習指導要領改訂の対応　　エ　多様性の受容 イ　教育のデジタル化の推進　　オ　自己肯定感の育成 ウ　キャリア教育の推進

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
学校経営を安定させる	学則定員 175 名の確保	授業や生徒指導の質の向上、生徒の満足度の向上のため ①ICT 機器導入や教育のデジタル化などの教育環境を整備する。 ②労働環境の改善・向上を推進する。 退転学者を減少させるため ③生徒の正しい実態把握に努め、早期に指導する。 焼津高校の認知度・好感度向上のため ④生徒募集、広報活動を充実させる。	B	①一人１台端末の導入をはじめ、様々なデジタル環境の整備を進めた。その活用が今後の課題である。 ②社会労務士の助言提案を得て就業規則の大幅改定を行った。 ③転退学者は減少したが、課題を抱える生徒の情報共有の体制構築は道半ばである。 ④広報活動は認知度向上、定員充足に繋がった。
総合学科の特徴を生かす	総合学科の特徴を生かすための教育課程	教職員の資質向上のため ⑤総合学科や観点別学習評価、指導法等に関する研修を設定する。 総合学科の特徴を最大限に生かすため ⑥教育課程を検討し、改革改善する。 ⑦産社・総合においてキャリア教育を充実させる。	C	⑤研修を設定したが、指導力は十分育成されたとはいえない。 ⑥教育課程の検討は不十分であった。次年度の優先課題である。 ⑦キャリア教育はまだ改善の余地があり、産社・総合の体系的な計画を次年度に取り組みたい。
人間成長を涵養する	協働・共生の意識と学力向上・進路意識の高揚	生徒がより円滑な社会生活を送るようになるため ⑧すべての教育活動において、多様性を受入れコミュニケーション力を高めるよう促す。 自分を知り、進路希望を実現するため ⑨挑戦を推奨し、自己の在り方を探る高める場面・しかけを増やす。 ⑩進路実現のために必要な力、伸ばすべき力を意識させる。	C	⑧多様性受容は進めているが教員の目的意識を高める必要がある。 ⑨挑戦を推奨する場面やしかけを設定したが、増やすとまでは至らなかった。 ⑩まず生徒の力と伸ばすべき方向性を教員が正しく把握する必要を感じた。そのための研修機会を増やし資質能力の向上を図りたい。

自己評価表　生徒募集

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
定員 175 名の 確保	中学校への募集活動	年4回の中学校訪問をとおして、焼津高校の特色、魅力を中学校の教員・生徒に伝える。 学校見学・説明会への参加の呼びかけを依頼。 リーフレット、学校案内、学校見学・説明会のチラシの作成・配布。 各中学校の進路学習会等でのPR活動。	A	昨年度より受験者が減少したが、定員は確保した。 広幡中(1年)大富中・長田南中・島田一中・豊田中・青島中・東益津中・広幡中(2年)掛川北中・金谷中・賤機中(3年)の合計 11 校の進路説明会に参加。 葉梨中(3年 31 名)、和田中(2年男子 4 名)の生徒が来校。竜爪中の担任が見学会へ参加。
	男子生徒 50 名以上の確保	選択科目、部活動、学校行事等、男子生徒へのアピールポイントの模索。 男子生徒にアンケートを行い、満足度を探る。	A	男子は目標人数確保することができた。 来年度も今年度の受験者数を維持できるかが課題。
	学校見学・説明会への参加者数増加	学校見学・説明会の実施方法、内容を検討し、中学生と保護者の焼津高校に対する理解をより深め、魅力を伝えて受験に繋げる。	A	昨年度より参加生徒が増加した。 内容は3回とも趣向を凝らして実施できた。

自己評価表　総務部

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
新しい生活の展開と動機付け	式典運営のブラッシュアップ	・前年度反省を受け、管理職と事前打合せ。 ・周知と確認 ・各係引き継ぎファイルの点検。 式典アンケートを実施、集計。	B	・事前に改善点が発見できた。 ・周知不十分。資料配付や、係との連携強化で周知を深めたい。
各家庭と良好な関係を構築	PTA活動の充実化	・PTAが、社会情勢や時流に則した組織となるよう、会則の見直しを行う。 ・PTA行事などの保護者来校機会に、本校教育活動への更なる理解や、教職員との良好な関係を構築する機会とする。	B	・PTA 会則改正(役員の役職を定めない)役員選出がスムーズに。 ・保護者来校機会が少なく、情報共有が難しい場面もあった。
図書室の利用を進めて、読書に親しむ環境作りをする	一人あたりの貸出冊数を年間2冊以上にする 新着図書、推薦図書を充実させ、利用しやすくする 導入図書の選定をより充実させる 図書委員の昼休み当番の自覚を高める	前期/後期それぞれ HR ごとに貸出月を設定し、朝読書用に本を貸し出す。またそれをきっかけに、図書室利用を更に促す 定例の委員会にて「図書館だより」を発行し、新着図書、推薦図書を紹介する 選定に関わる先生方の専門分野、人数を増やし、様々な角度から生徒向け図書のより良い選定ができるようにする。 昼休みに図書室での委員会活動を自主的にできるようにする。読了調査・カウンター業務・本の整理などを通して、図書委員としての自覚を高める	B	・2～3年生はスムーズに。1年生は差ができた。「貸出月」が徹底できず。 ・良好 ・委員は増えたが、資料回覧が遅れた。もう少しコンパクトに早く選書できる工夫を。 ・2～3年生は経験者も多く安心して任せられた。1年生、始めバタバタも後期からは徐々に仕事できるように。

自己評価表　教務部

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
選択科目の充実	科目の充実と進路に向けて選択科目を充実させる	教育課程委員会にて、生徒にとって必要な科目を考え、科目設定に向けての話し合いを行う	B	多数の科目を増設することができた。さらに需要を満たせるよう新科目を考える。
授業の研究と改善	授業内容の改善を図る	研究授業を行い、他教科の指導方法を観ることで、観点別における評価基準や指導方法などを再検討する。また、理解しやすい授業を行うために各教科指導方法を考える	C	前期は研究授業がなかった教科がある。授業の関係で研究修了の見学ができなかった教員もいる。以前行っていた残対での研究授業も検討したい。
観点別評価の全体サポート	想定通りの評価ができたか	観点別評価ファイルの改善を行うことで各教科のサポートを行う	A	新たに追加した項目もあり、教員のほとんどがサポートファイルを活用し成績処理に役立っている。「主体的に学習に取り組む態度をはかる評価材料の工夫への支援を行う。

自己評価表　生徒部

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
生徒課 規範意識の向上 指導統一化のために規定の作成 生徒手帳の有効活用	「生活の留意点」を活用して統一した指導を行う。 規定による指導の統一化 生徒手帳にシステム手帳としての機能を加える。	クラスから学年、学校の縦のラインで指導内容が統一理解できるよう、普段の生活の中で指導すること同時に、HR・学年集会・全校集会の機会を利用して生徒に周知する。 アルバイト・自動車運転免許取得・学割証発行に関する規定の作成。 生徒手帳と背システム手帳をひとつにまとめる。 身分証明証はカードにして手帳に差し込む。	D	生徒心得（生活の留意点）の内容の改訂を行ったが、具体的な取組みによる成果は見られなかった。 令和6年度に向けて、生徒部が関わる様々な規定や内規を作成。 生徒手帳の利用頻度を高め、常に携帯することの指導につなげる。
生徒会 部活動の主体性	各自の目的や目標の達成に向けて、計画・実行・修正を行う。	・加入形態について、1年次は全員加入とし、2・3年次は自由加入とする。 また、活動日は各部活動で設定し、学校全体としては木曜日を部活動優先日とする。 ・部活動の男女別問題 ・部活動及び同好会に関する規定の作成 ・部活動費用規程の作成	C	加入形態について、部活動の実態を把握し改善していく必要がある。 今後は部活動ガイドラインの改訂や、生徒会費（部費）の規程を作成していく。
保健課	安全で快適な学校生活の確保	・特別支援に関する自由参加型校内 Zoom 研修を行った ・生徒への健康に関する意識高揚をはかるための発信 ・感染症対策で空調に守護神ゲル、エアドッグなどを設置 ・SCによる各クラスへのソーシャルスキルトレーニング ・不登校生徒宅への担任と家庭訪問を行った ・適応教室でのサポート	B	引き続き生徒にとって安全・安心な生活環境を整えていく。 学校、家庭生活上における、生徒の悩みや、課題に関してできるだけ早く、正確に担任が情報をキャッチし、アセスメントを行い、迅速に対応できるように組織作っていきたい。

自己評価表　進路部

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
進路希望達成のために	進路模擬試験 進路面談(就職・進学) 面接指導 志望理由書 求人票の見方 履歴書指導	2、3年 3～4回実施 進学 7月実施(3年生) 就職 7月実施(3年生) 就職 2月実施(新3年) 進学 次年度の4月実施予定(新3年) 外部講師を招いて実施	A A A	3年生は3回実施。2年生は次年度初めに外部講師を招いてSPIに関する研修を実施する。 進学者(総合型選抜)の対応のため5月より実施。 外部講師を招き進学(1回)、就職(2回)実施。
進路実現に向けた生徒・保護者との連携	進路希望調査 進路説明会 ロードマップの作成 進路説明会 保護者会	定期的に実施 6年 3月 19 日(進路別で開催)2年生 5月(進学)、7月(就職)3年生 3年間の進路計画の策定 進路に対する情報を共有するために進路通信『WILL』を適宜発行	A ※ B C C	3年は1回、1年と2年は2回実施。 3年5月では、多くの進学者(総合型)が受験先を決定済み。就職は金曜日実施を検討。 継続して検討。 一回のみ。次年度は、進路別で情報報発信を実施する。
学力・礼儀・意欲を高めるために	会社・職場見学 オープンキャンパスへの参加	1年 職業体験 2年 キャリア体験、 合同企業説明会への参加 授業ジャック(3月)の実施 企業ガイダンス(3月)への参加	A A A ※ ※	滞りなく実施。 20 社を招いて本校で実施。
進路先の拡大のために	企業訪問 入試説明会 就職説明会	詳細な情報を入手するために4月～6月実施	A	指名求人の増加(新規を含む) 2年後を見据え、男子の求人開拓を継続実施

自己評価表　１年部

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
進路（キャリア）意識の定着	進学希望者の育成 Ｓクラス構成 職業意識の育成 約束・期限の厳守 出欠席の安定 転退学者の削減	・「産業社会と人間」の授業を切り口に、特に10、11月の上級学校見学や分野別研究の内容の充実を図る。 ・来年のSクラス希望者３５名を目標とし取り組む。（２１～２５HRは各４１名） ・職業体験学習をきっかけに社会貢献を実感し、学校出席への意識、科目選択の機会における検定取得への意欲を高める。 ・日々のスコラ手帳使用の定着。 ・相談室やカウンセラーなどと関係を密にしつつ、職員間の情報共有、情報交換会の前後期各1回の開催。 ・上記の取り組みに努め、学年生徒全体の４％（ひと桁）にとどめる。	B A B C D B	・学年の進路担当と連携し産社の授業を計画的、効果的に運用し、進学の意欲を喚起することができた。 ・Ｓクラスの編成については初めての試みながら順序だて計画的に狙いを持って編成決定まで進められた。 ・スコラ手帳は学級によって取り組みに温度差があった。 ・ケース会議の頻度や情報共有面において保健部との連携は緊密ではない。 ・転退学者は及第点をつけていいかと思う。

学校行事への充実した取り組み	HR活動の充実 学校生活を楽しみ、行事への積極的な取り組み	・学級ごと工夫を凝らしたHRの実施を促す。 ・代表委員、各種委員や実行委員の役割を明確にし、生徒主体で取り組む学級運営を促す。 ・学年行事の実施や体育行事や文化行事時において学年練習を実施し、職員全体でも盛り上げる。	C B A	・学級ごとの色を出し、HR活動を含め行事への取り組みがみられた。ただHR活動計画の形骸化が心配である。 ・学年練習についても体育行事、文化行事ごとに担当者が責任をもって学年全体練習を運営する様子が見られた。
規範意識の定着と維持	学校のルールの遵守 社会で通用する人材育成	・担任とTTで連携し、朝礼時のスマホと貴重品をロッカーにしまう指導の継続。年間のスマホの不正使用指導の機会減少。 ・生徒指導部と連携した継続、統一した服装点検。 ・不定期の学年集会で規範意識の統一を図る。特に不正な事例が起こった時の学年集会の開催と生徒と職員の事例の共有。	B C B	・スマホの不正使用の指導は幾度あったものの、一年を通じ朝礼時ロッカーにしまう指導は継続的に行えた。 ・服装指導は学級ごとまちまちであった。 ・不定期な学年集会の実施はなくとも、「産業社会と人間」の授業の中で学年全体に校内のマナー喚起などの啓蒙的な話をする機会は確保できた。

自己評価表　２年部

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
３年進路に繋がる生活習慣の育成	言葉遣い 挨拶・返事・聞く態度 欠席・遅刻・期限遵守 自己管理実践	・日常生活でのＴＰＯを意識したコミュニケーション ・総合Ｉ・学年、外部講師講話からの学び ・各授業での意識した習慣化 ・学年統一活動の各クラスでの授業評価の取り組み ・個人、クラス、学年と段階的目標と振り返りと指導対応 ・手帳の活用（生活習慣・自学ノート・体調管理等） ・毎朝の身だしなみ・健康チェック ・講師講話からの学び	B A B A A B A B	学年全体的に見れば生活習慣に大きな乱れはなく習慣的に取り組めている生徒が多い。しかし、力を入れたかった欠席やTPO、手帳の取り組みはできる生徒と一部のできていない生徒の差を感じる。生徒指導面や挨拶返事聞く態度などは１年生から継続的に行えている。総合での講師や先生からの学びをしっかりと受け止められている生徒も見られる。
主体的な行動と課題対応力の育み	主体的な学び 個人的目標課題 授業での向き合い	・進路を意識した選択科目への取り組み ・総合Ｉを踏まえた進路研究 ・積極的な資格取得への学び ・目標設定からのＰＤＣＡの実践 ・手帳の活用 ・地域学習での交流や課題への向き合い ・進路希望に向けた目標・課題設定と実践	A A A B B A A	進路に関しては、例年に比べ早くからの意識付けと活動を総合Ｉに組み込み行い後期の修学旅行で薄れがちにはなったが、１月からの３年０学期の進路活動といい流れで進路意識も高めらえている。特に総合Ｉの振り返りアンケートでの進路の内容への好評が多かった。地域学習の新たな取組みも生徒の意欲的な姿勢が見られた。
社会への協調性・他者貢献心の育成	協調性 他者貢献	・学校行事・学年クラス活動への取り組み ・修学旅行などの集団行動 ・クラスでの分担役割への貢献 ・総合Ｉ地域学習での学び ・校内外での活動を通した交流とコミュニケーション	A A A A A	学年始めに伝えた「高校生の力」をうまく受け入れてくれていて、地域学習を始め、行事や集団行動など協調性や有意義な交流などに結び付けられる集団になってきていると感じる。部活動や個人的にも、校外での積極的な活動にも意欲的に取り組む生徒が多い。

自己評価表　３年部

ねらい	評価項目	具体的な取組	評価	成果及び課題
進路活動を充実し全員の進路を実現する	個別面談	現実的な話をしてしっかり考えさせる面談ができているか	A	担任、進路部ともしっつかり取り組んだ
	三者面談	保護者と本人と担任の意思疎通(信頼関係)がしっかりできているか	A	保護者の意見もしっつかり聞きスムーズに活動できた
	進路ガイダンス	興味関心のある上級学校見学会に積極的に参加しているか	B	生徒任せで実態の把握はできていないが報告では良好である。
	企業見学	興味関心のある企業見学に積極的に参加しているか	A	就職見学はおおむね良好であり入社試験までほぼこぎつけた。
基本的生活習慣を確立して、将来に生かす。	挨拶	社会人として最低限のマナーを朝の挨拶、授業の挨拶、帰りの挨拶をしっかりやらせる。	B	進路のこともあり意識しての挨拶はできた。
	敬語	先生方への言葉遣いを敬語を使わせて社会で困らないように対応させる。	B	面接練習で反復させ、身に着けた言葉遣いを試験に活かせていた。
	欠席遅刻早退	就職、進学に影響するので常に意識させた生活習慣や健康管理をさせる	B	ほとんどのものは良好であるが一部まだ生活の乱れがある。
一般教養を充実して学習を進め将来に生かす。	進路模試	3回の進路模試を事前学習を含めて充実して行う。	B	夏休みの進路模試は延期であったが３回とも行った。
	定期テスト	進路の入社、入学試験を意識して取り組ませる。	A	総合の時間などでも意識した取り組みであった。
	家庭学習	上記のテスト以外の資格試験などにも対応するために各自、自覚して行う。期限を守って提出させる。	B	１点取得の対応は前期の最後はしっつかり対応してできた。

令和５年度

焼津高等学校学校評価委員会

日　時　　令和６年３月２５日（月）

午前１０時４５分～

会　場　　焼津高等学校　会議室

学校関係者評価委員会　意見

1. 新しい教育は大変であるが、多くの研修を開催して充実させて欲しい。
2. 男子が増加し、定員の確保ができたことはよかったが、教員不足が心配です。
3. 評価 A の項目はそのまま継続をして欲しい。
4. 評価が悪かった項目は少しでも評価が上がるように改善をお願いします。
5. 研修を設定するだけでなく、効果的に実施をしていって欲しい。
6. 様々な教育活動の中で各分野の専門的な講師の研修等を行ったらどうか。
7. 生徒に学びたい分野のアンケートを取るなどして、教育課程編成の参考とする。
8. デジタル化をさらに進めていって欲しい。
9. 体験型の学習も焼津高校には必要である。
10. 授業の見学をもう少ししたかった。
11. 男女共学の体制が整い、新しい校風が育っている。
12. 総合学科の成果が対外的に広報不足である。
13. 将来を見すえて、さらなる募集活動の教科をお願いします。
14. 総合学科という特性に加え、男女共学が功を奏して入学希望者が増加したことは喜ばしい限りである。校内の施設設備も順調に進み、生徒には恵まれた教育現場が実現しつつあるように思われる。今後はハード面に加え、ソフト面においても更なる充実化を図ることも必要である。すなわち、コンプライアンス等を含む教職員の意識改革である。そのためには本校の基本理念を生徒のみでなく、職員も共通に認識し、学校全体で共有することが必要である。少なくとも意欲をもって本校に入ってきた生徒や職員を失望させることのないようにしていただきたい。当法人の更なる発展を切に願うものである。
15. 少子化の時代で学校経営がいかに大変か察する。その中で男子生徒も含め入学定員を確保できたことはひとまず安心した。そういう意味においては、生徒数も増えてこれから施設の充実や優秀な教員の採用等教育内容の充実を期待している。
16. 就業規則の改定等順調に行われ、生徒職員が安心して学業、仕事を遂行され、明るい校内となるよう期待している。

学校関係者評価を受けての改善策

学校関係者評価委員会で寄せられた様々な意見や期待、叱咤を受け、改善策を以下に示す。

1　教職員の意識改革

本校教職員は情報収集、意識改革の機会が不足する傾向にあり、これを解消して個の資質能力向上を図る。

(1) 研修の機会創出と内容充実

変化する社会や多様化する生徒の状況に、また、男子生徒急増による学校の変化に対応するため、専門的な講師を招く校内研修を設定する。さらに、教職員一人ひとりが自覚と責任感を高めるため、主体的に校外研修を受けるような仕掛けを工夫する。研修を設定して終わり、受けて終わりではなく、外部の刺激を主体的に受けることで教育実践に活かし、自己の成長につながるよう、効果的かつ充実した研修を目指す。

(2) 指導力・業務力の向上

他校に遅れ 2024 年度入学生に一人一台端末を準備したが、教員が効果的、主体的に活用するため、教育におけるさらなる ICT 化、デジタル化の推進のため、教育 DX スーパーバイザーを配置し、情報収集と機敏な対応を進める。実践と効果検証を繰り返した結果、指導力や業務力の向上が実現すると考える。

(3) 効果優先から効率重視

教員の働き方改革が叫ばれる昨今、教員は効果を優先するが故に長時間労働となる。効率を優先する発想、費用対効果を重視する価値観を教育現場に浸透させるため、の意識改革を進める。就業規則の改定等も同時に進めることで教員不足の解消や優秀な教員の採用が期待される。

2　教育課程：教育実践の充実

施設設備や教育内容の充実は効果的な教育実践に欠かせない。男女共学の体制が整い、新しい校風が育ちつつある中、寄せられた大きな期待や意欲が失望に変わらないよう、更なる学校改革を進める。

(1) 教育課程の検討

教育課程は常に検証・検討が求められる。生徒の声を拾って編成の参考とし、総合学科の特徴である地域交流や体験型学習などの多様な選択科目を精査検討する教育課程検討委員会に力点を置き、施設設備の検証や教育課程の検討を進める。

(2) 教育実践のための準備と振り返り

本校の基本理念を職員が生徒に示すだけでなく、自身が明確に認識し、実践することが必要である。総合学科の本領を発揮するために、教育実践の方向性を示す総合学科推進室に力点を置き、準備と振り返りを繰り返しながら実践力を高める。